

Laparoscopic Hysterectomy: TLH) の詳細を文献的考察も加えて報告する。

症例は60才, 2経産. 前医での子宮内膜細胞診にて疑陽性のため当科紹介. 子宮内膜組織診にて endometrioid adenocarcinoma, Grade 1 と診断され子宮摘出術の方針とした. 術前に腹腔鏡下手術のメリット, デメリットを説明の上, 術後回復が早いメリットを重視され腹腔鏡手術を希望された. 手術は, 体内にて全ての結紮手技を行う TLH で子宮摘出を行い, 同時に両側付属器の摘出, 骨盤リンパ節の生検を追加した. 手術時間は2時間26分, 出血150mlで, 術中術後に合併症は認めなかった. 術後病理診断は, Atypical endometrial hyperplasia, simple の所見で, リンパ節転移を認めなかった.

【考察】子宮体癌に対しての腹腔鏡手術は, 長期予後が開腹手術と同等であるか否か不明な点はあるが, 出血量の減少と入院期間の短縮で良好な成績が報告されている. 本術式の問題点および将来性を文献的報告も交えて考察したい.

## 18 ロボット支援前立腺全摘除術 (RARP) 導入までの取り組み

山川 雅子・鈴木有紀子・佐藤 綾子  
高畑 友代・小熊 克彦・渡辺 竜助\*  
金子 公亮\*・郷 秀人\*

済生会三条病院手術室  
同 泌尿器科\*

今春手術支援ロボット「da.Vinci サージカルシステム」を導入した. 昨年8月準備委員会を立ち上げ本器設置の是非から検討し, 12月に導入を決定した. 医師2名, 看護師2名, ME1名の計5名で「da.Vinci チーム」を結成し教育プログラムに沿ってトレーニングを開始, ①オンライントレーニング ②オンサイトトレーニング ③オフサイトトレーニング ④症例見学 ⑤シミュレーション, を経て平成24年5月30日 RARP の第1例目を行った.

当院では年間約30例の後腹膜到達法による腹

腔鏡下前立腺摘除術 (LRP) を施行しているが, RARP は経腹的到達法によるロボット操作をはじめとし, 25°の頭低位での特殊な体位が必要であり, その麻酔管理など今までの LRP とは異なる術式であるため, 新たなマニュアルを作成した. RARP 施行第1例目までの取り組みを報告する. (RARP: Robotic-Assisted Radical Prostatectomy) (LRP: Laparoscopic Radical Prostatectomy)

## 19 当科における腹腔鏡下ハンドアシストドナー腎採取術 (後腹膜到達法) の検討

新井 啓・丸山 亮・小松 集一  
糸井 俊之・星井 達彦・笠原 隆  
斉藤 和英・西山 勉・高橋 公太

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
腎泌尿器病態学

【目的】我々は2008年10月より腹腔鏡下ハンドアシストドナー腎採取術 (後腹膜到達法) を導入し2012年5月までに78例のドナー腎採取術を行った.

【方法】ハンドアシストにはアプライドジェレックス [アプライドメディカル社製] を使用する. トロッカーは中腋窩腺上にカメラポート, 背筋群外側にトロッカーを1本, 傍腹直筋切開を7センチおき, アプライドジェレックスを装着, トロッカーを2本挿入する. 腎周囲, 尿管, 腎門部動静脈剥離は主に鉗子操作のみで行う. 腎周囲剥離の確認, 腎動静脈切断, 体外への採取の際にハンドアシストを加えている.

【結果】平均手術時間は290分, 平均出血量は171ml, 平均温阻血時間は3.0分であった. 合併症は術後出血を1例認めている.

【まとめ】本術式は安全に腎を採取できる方法であると考えている. 今後は手術時間のさらなる短縮を目標に, 手技の細部を検討し症例数を重ねていく予定である.